

日本のジオパークのこれまでと今後

Activity on Geoparks in Japan -The past, present and future

渡辺 真人 [1]

Mahito Watanabe[1]

[1] 産総研・地質情報研究部門

[1] GSJ, AIST

日本におけるジオパーク活動の経緯、現状と今後について報告する。

2004年のGGN設立前には、国内では関心を持っている人はいたものの具体的な活動はあまり行われていなかった。GGN設立を受けて、2004年に日本地質学会でジオパークに関する集まりが開かれ、2005年に同学会にジオパーク設立推進委員会が設置され、情報収集や普及・広報活動が開始された。また、NPO法人地質情報整備・活用機構が2006年から2007年初めにかけて三度ジオパークに関するフォーラムを開き、少しずつジオパークの仕組みが世の中に知られ始めた。

昨年5月に、日本地球惑星科学連合大会において、ジオパークに関するユニオンセッションが開催され、研究者とジオパークに関心のある自治体関係者が講演した。このセッションを受けて6月に朝日新聞科学面にジオパークが大きく報道され、興味を持つ自治体が増えた。2007年にはこのほかにも日本第四紀学会、日本地質学会などでジオパークに関するシンポジウムや講演会が開かれた。こうして、全国各地から日本地質学会ジオパーク設立推進委員会に、ジオパークに関する問い合わせが多数来るようになった。同委員会では、GGNのジオパーク関連資料・申請書類の日本語版を作成し、自治体からGGNへの問い合わせの窓口となり、自治体で開催される勉強会などで講演を行い、関連省庁に学会・自治体からの要望を伝えるなどして、国内のジオパーク推進活動を支援した。

昨年12月には、13地域の自治体関係者が集まって、日本ジオパーク連絡協議会が設立された（その後参加地域は15地域に増えた：図1）。同協議会は設立直後から関連省庁・関連学会など各方面に必要な支援を要請するとともに、GGN申請のための情報収集と情報交換を行っている。